

経営比較分析表（平成30年度決算）

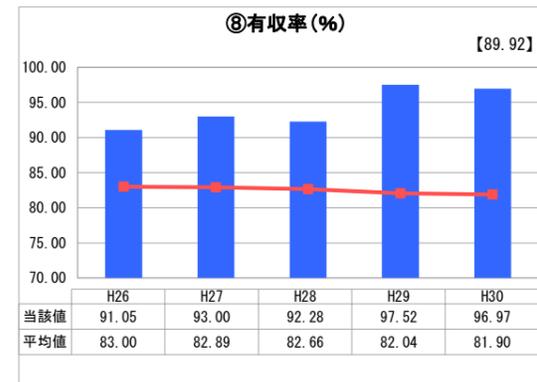
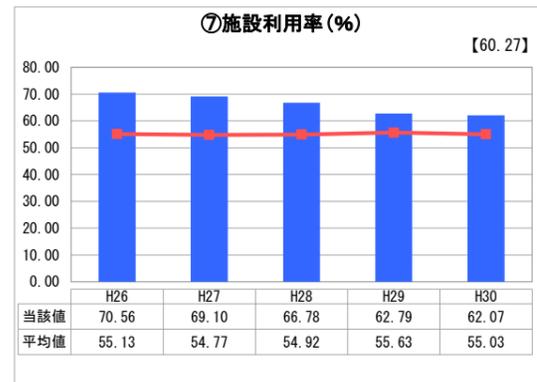
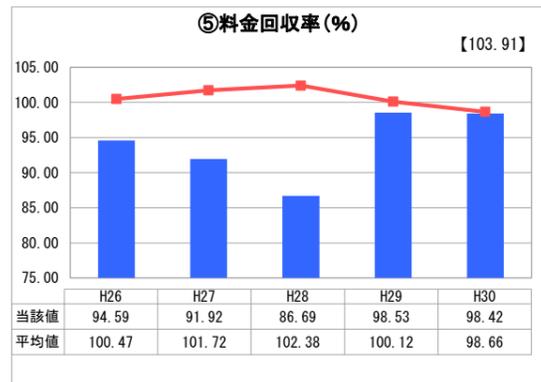
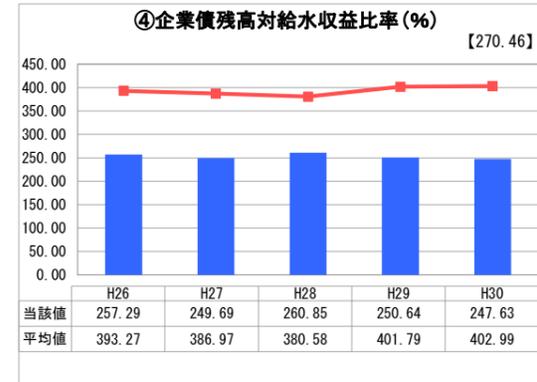
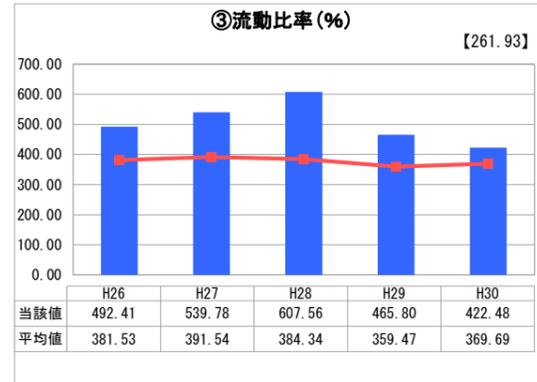
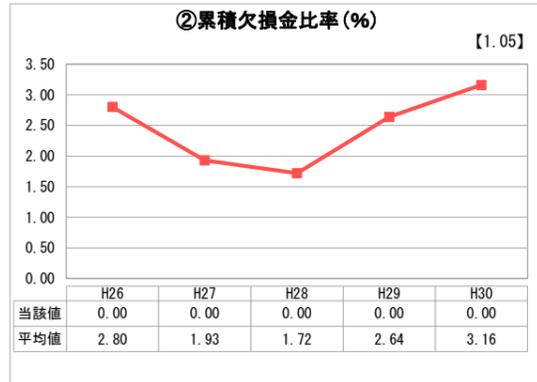
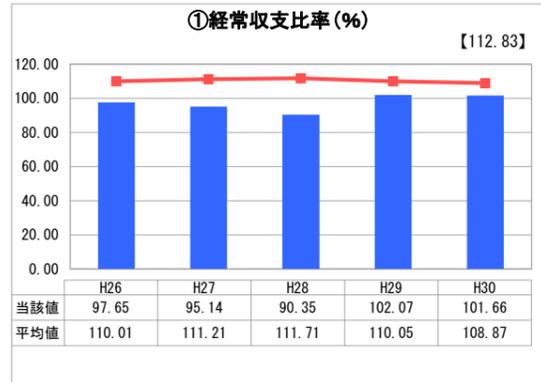
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	75.99	99.94	1,931	

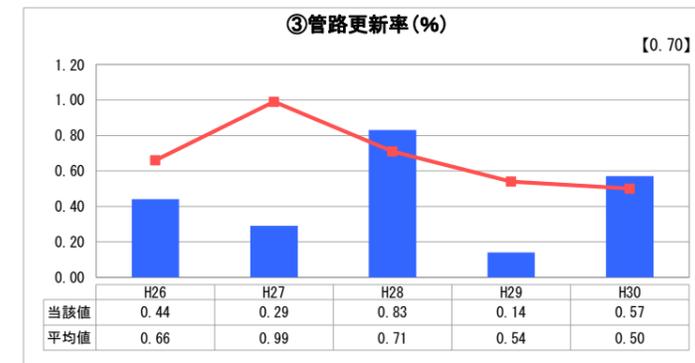
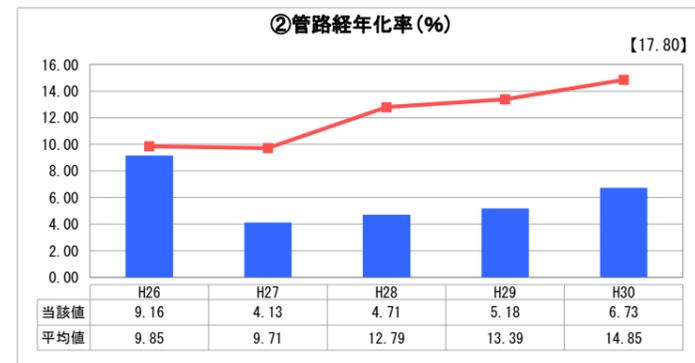
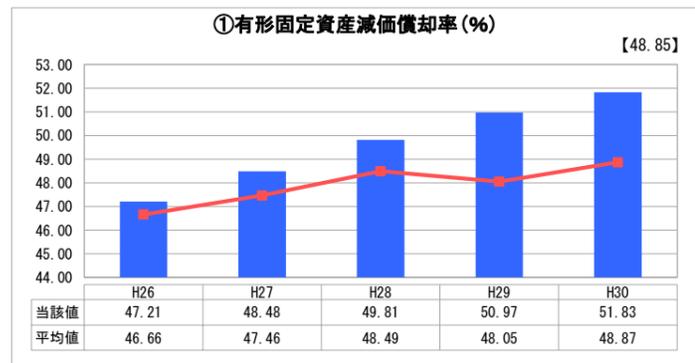
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
20,294	41.63	487.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,176	41.72	483.60

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、平成29年度から県水受水量を削減、自己水を増量するなど支出を減らしたことにより100%を上回りました。
 ② 累計欠損金比率は、平成26年度の会計基準改正以降0が続いています。
 ③ 流動比率と④ 企業債残高対給水収益比率については、類似団体平均に比べてよい状況にあります。今後は、平成30年度から10年を目処に施工する配水管耐震化事業（指定避難所等の重要給水拠点までの配水管を耐震化）の財源として企業債の借入を行うことで、変化すると思われます。
 ⑤ 料金回収率は、過去に比べ向上しましたが、まだ100%を下回っています。
 ⑥ 給水原価については、前年度と同等ですが、さらにコスト削減などを進めます。
 ⑦ 施設利用率の低下は、人口減少により水の使用量が年々減っていることを反映しています。今後は、施設や管路のダウンサイジングを検討していきます。
 ⑧ 有収率は、前年度より減少しましたが、高い水準を維持しています。複数年にわたり行った漏水調査や漏水修繕を反映したものとされます。引き続き、町内の漏水調査を行う予定です。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、浄水場施設・管路とも古い固定資産の占める割合が多い値となっています。
 ② 管路経年劣化率では、配水管について法定耐用年数を超えた延長は少なくなっています。
 ③ 管路更新率では、更新した延長が耐震化工事により増加したことを示しています。今後も引き続き配水管耐震化事業により管路の更新延長が増加するため、これらのグラフにも変化が生じると推察されます。

全体総括

経営面では、企業債借入について、償還金残高や利息水準などが適切になるよう検討します。また、漏水などの水の無駄が生じないように取り組みます。浄水場施設や配水管では、配水管耐震化事業のほか、アセットマネジメント結果などに基き老朽化施設の更新を進めます。また、水の使用量低下について、将来の水需要に合わせた老朽化施設のダウンサイジングを検討します。加えて、水道事業の広域化を推進します。
 町では、水道事業ビジョンや経営戦略など策定しており、これらの計画に基づき、これからも、みなさまが安心して水道をご使用できますように、水道事業経営に努力いたします。